

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・東北新幹線の青森開業により、函館まで足を延ばす観光客が増えており、ホテルや周辺の飲食店は前年から5%前後の伸びがみられた。ただし、商店街としては年末大売出しも盛り上がりには欠け、やや悪い状態であった。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・客単価が前年を上回る傾向で推移している。さらに、客の買上率も前年に比べて上昇してきており、消費意欲が高まってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・11月から来客数が増加傾向にあり、今月の来客数は前年比107%を超えるなど、大きな伸びがみられる。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・11月末でエコポイントが半減したことにより、家電に集中していた支出が歳暮などの一般の支出に回ってきている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・薄型テレビや冷蔵庫などのエコポイント半減のため、今月の来客数は落ち込んだが、薄型テレビ以外の家電の購買は前年並みであった。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・クリスマスディナーやケーキの販売が好調である。また、おせち料理の予約も多く、イベントの際には高価な買物をする傾向が強い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・12月は年の瀬ということもあり、3か月前と比べると、人も金も若干動きが良く、景気は3か月前と比べると上向いている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・ボーナスが前年を下回っている。また、客からは息子の就職がまだ決まっていないなど、先の暗い話ばかり耳にする。今まで客から本当の声をなかなか聞けなかったが、最近は切実な声として聞くようになった。実際、不要不急の物を購入する気になれないというのが実情である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・12月は防寒物本番の月であったが、年明けのバーゲンまで大きな買物を待つという客の買い控えがみられた。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は以前と変わらず、変化がみられない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・年末商戦期間であったにもかかわらず、初旬及び中旬ともに来客数は増加していない。また、来客数の増加が期待された下旬においてもクリスマスイブ前日は大雪の影響で来街者数は予想をかなり下回った。クリスマス以降についても盛り返すまでの来客数はみられない。特に飲食店への入店客が少ないが目立つ。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・月半ばまでの贈答品の動きをみると、販売量は前年とそれほど変わらないが、客単価が平均で500円ほど落ち込んでいる。また、一般の販売品については、1回当たりの客の買上点数がとてま少なくなっており、細かい買物が増えている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・お歳暮ギフトやクリスマスケーキ、おせちの動きをみると、販売量は前年と比べて微増しているのに対して、単価が下がっているため、売上は前年を下回っている。ボーナスの減少や家電への需要シフトの影響もみられる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・11月ほどではないが、12月商戦としてはギフト等の売れ方に大きな波がなく、しめ縄等の季節商材も売行きが不振である。ただ、青果、食肉、鮮魚等の生鮮部門が健闘し、売上は計画を達成できている。	
	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・今夏の猛暑の影響で当地の主要産業である農業において、作物の生育状況が思わしくなく、消費に影響を及ぼしている。単価についても、前年に対しての減少幅は縮小しているが、依然としてデフレ傾向が止まらない。	
	スーパー（役員）	単価の動き	・既存店ベースの売上は前年比105%となっており、前月からは2%程度上回って推移している。客単価は前年比103%と上昇している。売上構成比の高い裏作のみかんなど、生鮮食品全般の相場高が加わり、商品単価が前年比101%と高くなっているなか、1人当たりの買上点数は前年比102%とやや増加している。	

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は回復傾向にあるが、来客数は前年並みかそれ以下の状態となっている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・予約商品の動きをみると、数量はそれなりに動いているが、単価の低い商品に予約が集中している。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・商店街で売出しを年末にかけてやっているが、なかなか数字が上がらず、売上が段々と落ちてきている。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・11月度のエコポイント特需の反動があり、売上が前年よりは減少している。ただ、12月から付与ポイント数が半減したとは言え、家電エコポイント制度自体は継続しているため、ほぼ横ばいの状況である。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行は依然好調であり、売上は前年比141%となっている。先行受注の1月のハワイチャーター便も200名分がすでに完売している。国内旅行は売上が前年比80%で低迷している。特に自社ブランドのシェアが伸びてこない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・12月の取扱額は、国内旅行が前年比101%、海外旅行が前年比84%となっている。国内旅行が若干前年を上回っているものの、海外旅行が前年割れしており、全体の状況はあまり変わっていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は忘年会などで夜の人出が多くなり、タクシーが1年で1番忙しい繁忙期となる。週末はすすきのも人出が多く、タクシーの利用が多かったが、平日はいつもと変わらなかった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月の売上は、3か月前と比較すると約5%落ち込んでいる。しかし、毎年この時期になると、売上が多少落ち込むのが普通であり、前年と比較すると、約2%の売上増となっていることから、景気が下向きとは言えない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文が減少しているほか、来客数も前年を下回っている。客単価も低下している。
	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・通信会社各社の販売・宣伝・通信機器のバリエーションがきつ抗しており、客の今後の注目度にも大きな変化がないため、3か月前と比べて状況は変わらない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・冬の訪れとともにフェリーの輸送量が減少すると思われるが、建設工事の工期が延長されていることもあり、予想以上の輸送量がみられた。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・クリスマスプレゼントの客単価が前年より10%以上下がっている。また、客1人当たりの買上点数も落ち込んでいる。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・12月に入り、来客数は前年並みをキープしているが、1人当たりの買上点数、買上金額が大きく落ち込んでいる。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・冬物衣料の動きが厳しい状況にある。暖冬の影響もあり、コートやニットの動きが非常に悪く、動きがみられない。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月の全店の売上は前年比90.3%であったのに対して、12月の売上は現時点で前年比93.7%となっている。買上客数は11月に引き続き94%台で推移しているが、9～10月に前年並みとなっていた客単価が11月に前年比95.4%まで低下しており、12月もこの傾向が続いている。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・11月までは家電エコポイント制度による来客数の増加が家電以外の分野にも寄与し、比較的順調な売上であったが、今月は来客数が減少しており、厳しい状況にある。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たはこの値上げ分が上乘せされていることで売上は前年を超えているが、来客数は前年を下回っている。客単価も低下しており、より安い商品にシフトしている傾向がうかがえる。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・あまり人が出歩いておらず、客が来ない。閉塞感があり、買わないことが固定化しそうだ。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・低価格に対応したメニューを期間限定で販売したが、そのメニューが人気であった。来客数はほぼ前年並みであったため、売上は前年比で1%下がった。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・クリスマス関連では12月24日以外は満席にならなかった。夕食でも団体客が減っているほか、小グループの客単価が下がっている。飲食店では、昼食は前年並みに客が入っているようだが、すすきの飲食店では、客は夜遅くまでおらず、早めに地下鉄で帰ってしまうようだ。		
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・円高による海外客の減少がみられる。また、航空路線や機材の縮小によって需要があっても北海道に來られない観光客も多数いる。		
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・12月に入り、雪がテーマの観光やスキーでの宿泊客がメインとなっているが、降雪の遅れが影響してか、予約状況は前月や例年と比較しても10%近く悪い。また、若者の冬のスポーツであるスノーボード客も、高い失業率から、レジャーより就活に専念しており、余暇を後回しにしている状況がうかがえる。		
	観光名所(役員)	来客数の動き	・今月は海外観光客の落ち込みがシンガポール・マレーシアなどからの入込客の増加で一息ついたものの、国内の景気が今一つのためか、国内観光客の勢いがなく、全体としては前年割れの厳しい状況にある。		
	観光名所(職員)	来客数の動き	・北海道観光も閑散期に入り、国内客・海外客とも利用者は減少傾向にある。特に11月からは海外客の利用が減少している。		
	美容室(経営者)	お客様の様子	・例年は年末年始ということで活気が出てくるが、今年はその年末らしさが感じられない。1年を通して、同じパターンで消費をしていく地道な生活習慣になってきている。		
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・3か月前と比べて、販売量はやや増加しているが、客単価は低下しており、全体の売上は減少している。客単価が下がる原因としては、客は少しでも安い物を買わなければ損をすと思っており、少しでも安い物を買う消費者は賢いと考えている。実際に身の回りの価格は下がっており、デフレが更にデフレを深めている。		
	悪く なっている				
企業 動向 関連	良く なっている	-	-		
	やや良く なっている	-	-		
	変わらない	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・一部の高品質製品や高級品に対する受注は前年を上回るものの、原材料の高騰により、前年と比べると1割程度の利益減少となっている。	
		食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量ともに変わらず、低迷している状態が続いている。	
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・マンション需要などの一部には明るい兆しが見えてきたが、全体的には景気回復の実感は弱く、家具の販売増にはつなげていない。	
		金属製品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量・販売量が増えてこない。経済が活性化していないため、客先の購買意欲が減退している。	
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建物建築ともに、依然として低調であり、特に一戸建ての住宅建築が伸び悩んでいる。	
		司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しが一向に見えず、経済状況も不安定なため、不動産取引などの大型案件の成約がみられない。	
		その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注価格や販売価格の動き	・メーカーからの発注条件が更に厳しくなっている。	
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・畑作農家の所得が共済金で維持されたため、消費動向が堅調になってきている。	
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・11月により売上前年比で25%程度増え、回復状況にあるとみられたが、今月は年末月のせいか仕事量が少なく、稼働日数も少ないことから、10月並みの水準に戻ってしまった。	
		やや悪く なっている	建設業(従業員)	取引先の様子	・大手設備工事会社の支店幹部から、積極的に受注を目指しても赤字になるだけなので、じっとして春を待つとの話を聞いているように、建築関連工事は底を突いている。

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・青果、自動車、家電関連の低迷により、段ボールなどの製紙で減産調整が続いている。
	金融業（企画担当）	それ以外	・政策支援効果が薄れ、家電や自動車などの売行きが落ち込んでいる。また、公共投資の大幅減少により、土木建設業が不振である。道内では、建設業を基幹産業とする市町村が多いため、雇用・所得面にも影響を及ぼしており、消費低迷を招いている。
	悪くなっている	司法書士	取引先の様子 ・不動産の売買、建物の新築が相変わらず減少している。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き ・当社の売上は累計で、3か月前までは前年比98.4%であったものが、この12月現在では前年比86.9%までに落ち込んできている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・12月の求人件数は前年比で20%の増加と順調に推移している。特に、中食傾向を示す食品製造・加工業の求人、大手自動車メーカーやスマートフォン・3Dテレビ関係の製造系道外業務請負の求人が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年から18.4%増加し、月間有効求人数は前年から16.5%増加し、10か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・管内の有効求人倍率が6か月連続で前年を上回るなど、雇用情勢に多少明るい兆しがみられる。
	変わらない	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・前年比では求人件数に若干の増加がみられるが、ここ3か月の動きは微減傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き ・募集広告売上が前年比132%となり、今年4月から9か月連続で前年を上回った。札幌市内の大手派遣は農産加工からのオーダーが回復したことから、前年比150%と大幅に回復した。また、流通系、環境衛生、医療も同様の伸びを示した。しかしながら、売上は前々年をまだ若干下回っており、年間を通して前々年の水準と比較すると微減で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・求人数が横ばいで推移している。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子 ・11月の新規求人数は前年比37.5%の増加となった。新規求職者数は前年比5.4%の増加となった。この結果、月間有効求人倍率は0.50倍となり、前年の0.39倍を上回った。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子 ・雇用関係の厳しさを訴える報道が連日のように発信されているが、企業の採用担当者から、こうした状況を打破するような求人等が上向き、明るい情報提供はほとんどなかった。新卒採用に関する情報と併せて企業の業務展開、実績にも触れるが、景気低迷が反映して、総じて削減、削除、縮小等の発言が繰り返されていた。企業カレンダーの作成も見直され、手帳に至ってはほとんどの企業が作成を見合わせているなど、企業の業況の厳しさを実感している。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子 ・正社員の求人が減少傾向にある。逆にパート・アルバイトの求人は微増で推移している。また、行政官庁からは雇用対策事業が多数発注されるなど、いまだ景気は低迷しており、雇用環境が改善しているとは言い難い。
	悪くなっている	-	-